報告

平成 20 年度事業委員会主催「宿泊見学会」等の開催

事業委員会
オホーツク技術士会

はじめに

去る 9 月 19 日～20 日の両日、北海道支部事業委員会主催（オホーツク技術士会共催）の宿泊見学会が実施された。本号では、初の地方技術士会が共催した宿泊見学会等を中心に報告致します。

１．事業委員会主催「宿泊見学会」

⑴　実施概要

日時：2008年(平成20年) 9 月19日(金)～20日(土)
参加者数：30 名(札幌地区：23 名､網走地区： 7 名)
主な見学先：網走支庁遠軽町内の現場・施設
見学工程のあらまし

9 月 19 日

・旭川紋別自動車道建設現場見学
・丸瀬布森林公園（主に森林鉄道）見学
・マウレ・メモリアル・ミュージアム自由見学

9 月 20 日

・白滝黒曜石遺跡現場見学
・遠軽先史資料館見学

⑵　見学概要報告

今回の見学場所は、オホーツク地域の遠軽町内の現場･施設対象のため、事業委員会で企画された際、オホーツク技術士会にも打診いただいた。このため事業委員会と地方技術士会との連携行事として初めて実施する運びとなり、集合場所については、参加受付時に札幌地区か網走地区を選択して頂き対処した。初日、白滝にて札幌地区と網走地区の参加者が合流し昼食をとりその後見学会が実施された。

①　旭川紋別自動車道建設現場見学

旭川紋別自動車道は、延長 130 km の高規格道路である｡落石･雪崩による通行規制や連続した急カーブ･急勾配の交通機能を解消し、道央･道北とオホーツク圏を結ぶ動脈となり水産物輸送や観光交通等の基幹産業及び地域の暮らしを支える道路として期待されている。見学時においては、北海道開発局網走開発建設部太田遠軽道路事務所長等による工事概要の説明を頂いた。

札幌地区と網走地区の参加者が合流し昼食会

札幌地区からのバスに全員同乗し見学開始

見学箇所の工事概要（３カ所）は以下に示しているが、自然環境・生態系・景観等に配慮した緑化工法、表土移植等を採用している。事業の概略計画を作成するにあたり丸瀬布から豊里間では計画の早い段階から市民参画の導入を図る「道づくり検討委員会」（PI）を設置･運営し、より良い計画づくりを策

定している。

○幌加湧別改良工事

延長：110 m

切り土(軟岩､中硬岩含む掘削土砂)：約 130,000m³

のり面：植生基材吹き付け、小段排水

○十八号改良工事

延長：680 m

切り土（岩含む掘削土砂）：約 220,000 m³

路体盛り土：約 80,000 m³

のり面：植生基材吹き付け

表土移植、側溝、管渠、集水桝設置

ふとんかご（湧水地に対応）

見学現場へ向かう参加者

植生基材吹き付け車による吹き付け作業

植生基材吹き付け後ののり面

○旧白滝改良工事

延長：2,420 m

切り土（土砂）：約 60,000 m³

路体盛り土：約 170,000 m³

のり面：植生基材吹き付け

表土移植、側溝、函渠、管渠、集水桝設置他

② 丸瀬布　森林公園いこいの森(主に森林鉄道)見学

木材運搬用として昭和 3 年から昭和 33 年まで旧丸瀬布町（現遠軽町）で地域の産業を支えた森林鉄道蒸気機関車「雨宮 21 号」(北海道遺産）を見学・乗車した。トラック輸送の本格化による林鉄の廃止が決まると町民による保存運動により当機関車が残され、現在では町の観光シンボルとして親しまれている。乗車時は、当公園で黒煙を上げて当時の面影を忍ばせていた。

「雨宮 21 号」の説明を聞く参加者

発車前の「雨宮 21 号」

「雨宮 21 号」乗車時のもよう

③　マウレ•メモリアル•ミュージアムの自由見学

マウレ・メモリアル・ミュージアムは、丸瀬布の廃校を再利用した博物館・美術館である。

このミュージアムは、身体障害を抱える芸術家の絵画を展示した部門、国内外の仏像・仏像画の展示部門、化石・原石・昆虫・帆船・航空機等の展示部門の 3 部門から構成されている。見学して驚いた点は、地元でも比較的知名度が低い施設にも関わらず大変貴重な展示品が数多く展示されており、また丸瀬布の自然の中で展示品と併せて心を癒されるひとときを味わうことができる。また、時間をかけて見学したいと思う価値のある博物館であった。

展示物（アンモナイト、手前左は大水晶）

④　宿泊先「マウレ山荘」での懇親会（情報交換会）

自動車道建設見学に際しお世話になった網走開建の伊藤次長が懇親会から出席頂き情報交換兼ねて会が行われた。開催時の大層畏まった（写真）ものとは相反し､大変賑やかで盛り上がった懇親会となり、二次会、三次会と秋夜が更けゆくまで交流が行われた。

懇親会での開催時のもよう（中野委員長挨拶）

⑤　白滝黒曜石遺跡見学（ 2 日目）

遠軽町では、世界的規模の黒曜石鉱体とその旧石器加工遺跡群、ナキウサギや風穴など氷河時代の環境など、多くの地域資源が存在している。そこでこれらの恵まれた地域資源・自然環境を保全し、ジオパーク（地質公園）として教育や観光資源への活用による持続的な地域発展を目指す「白滝黒曜石遺跡ジオパーク構想」(国際連合教育科学文化機関登録申請段階）を当町に於いて推進している。

「黒曜石」は、火山の溶岩(マグマ)が急冷し作られるガラス質の岩石で世界的規模の黒曜石原産地である白滝赤石山には、黒曜石の原石が大きく顔を覗かせている露頭が多数点在している。ここの白滝黒曜石は、貴重な地質事象として「日本の地質百選」に選定されている。

見学会では、遠軽町役場より手配いただいた 2 台の小型マイクロバスに乗車して険しい隘路を走り日本で最大の産出地である赤石山 (1,147 m) で黒曜石が採掘されていた地点、及び黒曜石の原石がむき出されている露頭の地点等に案内頂き説明を受けながら見学した。

黒曜石の見学（地面は、一面黒曜石が散在）

黒曜石（流紋岩含む）の露頭（原石）

⑥　遠軽先史資料館見学

白滝地域には、旧石器時代（今から 25,000～10,000 年前）の遺跡が多数存在している。石器の材料となる黒曜石の原産地であることから、石器製作を行った大規模な遺跡が形成される白滝遺跡群は、貴重な遺跡として「国指定史跡」の指定を受けている。また、旭川紋別自動車道建設予定地の白滝地区では、平成 7 年度から北海道埋蔵文化財センターが実施してきた黒曜石遺跡の発掘調査が本年 7 月末で終了した。13 年間で約 500 万点の貴重な遺物が出土した。同センターでは今後数年かけて分析し、更に石器時代の解明に役立てることにしている。

先史時代の生活状況

遠軽先史資料館では、黒曜石等の石器加工の技術の説明を受け、また旧石器時代には黒曜石加工の一大拠点として集落が形成されたとみられるが、文化の変遷を知る上で貴重な展示史料等の見学を行った。

石器加工の技術等の説明を受ける

⑦　太陽の丘えんがる公園での昼食・解散

見学終了時、国内最大級を誇るコスモス園「太陽の丘えんがる公園」にて昼食をとり、解散した。札幌地区はバスで、網走地区は各乗用車でそれぞれ帰路についた。

各展示史料の説明を受ける

石器等の展示品

国内最大級を誇るコスモス園

2．技術士制度ガイダンス

日時：2008 年(平成 20 年) 4 月 22 日(火)
　　午後 6 時 00 分～午後 8 時 30 分
場所：北見工業大学（北見市)、出席者：計 15 名
講師：橘　邦彦　技術士

ガイダンスでは、技術士制度の紹介、及び本年度の技術士第二次試験の申込方法の説明を行った。

３．現場見学会

日時：2008 年(平成 20 年) 7 月 2 日(水)
　　午後 1 時 00 分～午後 4 時 20 分
　　(現地見学 1：40～3：40)
場所：津別町網走川上流河道掘削域
内容：環境配慮型河川整備実施例
説明・案内者：北海道開発局網走開発建設部
　北見河川事務所 浅利晴雄所長･高田利幸計画課長
参加者数：25 名（内会員： 5 名）

　近年発生している洪水被害に対処する網走川上流域河道掘削等の河川事業を見学した。事業内容の特徴は、魚類の生息・産卵にも配慮した環境配慮型河川整備を採用し、淵と瀬の設定・造成、岩石を使用した水制工・分散型落差工の造成等で、治水及び環境に配慮した川づくりを学んだ。

説明を受け見学する参加者

自然岩石を配置した石積み水制工

４．その他

⑴　情報技術まちづくりフェア
日時：2008 年(平成 20 年) 6 月 6 日(金)
　　午前 10 時 00 分～午後 5 時 00 分
場所：北見工業大学(北見市)、参加人数：約 600 名
主催：情報技術まちづくり実行委員会
後援：オホーツク技術士会他
講演 1 ：食の安全・安心を情報技術で確保する
講師：㈱北海道総合研究調査会調査部
　　中澤正博　氏
講演 2 ：地理空間情報の利活用の現状と今後
講師：㈶日本情報処理開発協会データーベース振興センター　坂下哲也　氏

　他に、プレゼンテーション・セミナー及び展示・実演が行われた。

⑵「北見市都市計画マスタープラン策定委員」の要請依頼

　北見市では「北見市都市計画マスタープラン」を策定することになり、本会へ策定委員の要請があり次の会員を推薦した。
策定委員：橘　邦彦　技術士

おわりに

　本号においては、主に事業委員会主催の宿泊見学会を報告しました。宿泊見学会では、両日とともに大変天候に恵まれ有意義な内容で、懇親会では参加者と交流を深め、遠軽の自然を十分満喫できた両日でありました。改めて見学会に際して快く見学場所の提供・説明等いただいた北海道開発局網走開発建設部様、遠軽町様に重ねて御礼申し上げます。また、今回、綿密な企画・運営を行って無事成功裏に導いていただいた中野委員長、石村委員、椛沢委員等はじめ各事業委員会の皆様に改めて御礼申し上げます。更に、元高橋陽一会長には、オホーツク技術士会設立時に大変御尽力いただき、また、この度ご参加いただき感謝いたしております。

　最後になりますが、会員皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

（文責：オホーツク技術士会幹事　岡田　包儀）